

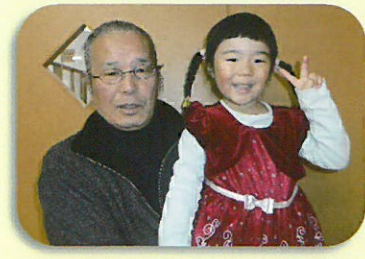
# 子育て父(爺)ちゃんの 【パート24】



## 「元気が一番」 皆川 徹朗さん (みんなのおじいさん)

最近活発になってきた みんなちゃんです。今年になって、ますます元気で家でも雪の中でも遊びまくっています。昨年の秋の運動会では一人で走れず年長さんに手を引かれてゴールまでやっとたどり着いたものでした。

その後、なんぶみんなのひろばで「きらきら星」の合唱や器楽演奏、しんちゃんのダンスなどに積極的に参加して安心させてくれました。お友だちとの遊びも楽しみなようで、少しでも早く迎えに行くと「なんでこんなに早く来たなよ?」と、あんなに消極的だったみんなが担当の先生をはじめ皆さん方の指導でびっくりする程活発になりました。帰ってきてから保育園での出来事を聞くのが楽しみな毎日です。



## 「日曜日の約束」 織田 朋也さん (こうきくんのお父さん)

今年から2階の幼児クラスになり、初めは心配していましたが、隣に住む祖父母に毎日「行って来ませ〜」と元気にあいさつをして登園してくれています。

父母共に夜勤業務もあり、なかなか3人でのいる事がなく煌騎も淋しい思いをしていると思います。日曜日に休みの時は、息子と上杉公園を散歩して玉コンを食べるのが日課になり、関わる時間を増やしています。今後も日々共に成長していきたいと思っています。



# あのね〜 成長日記

パート⑱

### 【雪山登りのエピソード】

この冬、園庭にスノーランド(主事が雪山やかまくらを沢山作ってくれたもの)ができ、子どもたちは毎日“今日はこの山を制覇しよう”と意気込んで登園してくる。

2歳児のA男は年長、年中児が山に登ったところから、手足に力を入れて雪山にしがみつき登ろうと挑戦する。しかし、途中から何回も滑り落ちてしまい、涙や鼻水を流しながら「のぼりたい〜のぼりたい〜」と繰り返して苦戦している。

A男は滑り落ちた丁度隣にいた年中児のB男に「のぼりたいんだ〜」と泣きながら八つ当たりしたり雪の上を叩いたりする。

B男は「いたい…」と言ったものの手を出さず雪山に登っていき、泣きながら何回も何回も挑戦しては滑り落ちるA男を頂上から見て「がんばれ…」と小さな声で応援し手を差し出してくれた。A男もその手を取って登ろうと必死に頑張るが登れなかった。

B男の温かな姿勢は、自分もA男のような葛藤や悔しさを繰り返しながら挑戦してきたからこそその姿だと思う。A男も年長、年中児のようにになりたいという憧れが意欲へとつながっている。

年下の子との関わりから自分の成長を感じ、年上の子との関わりからこれからの自分の成長に思いを膨らませている。異年齢の交流のなかでこそ育った思いだと思う。

このような子ども同士で育ち合いが自然に生まれてくるように、遊びや環境の工夫をおこない、子どもの育ちと成長していく過程を見つめ、学び合いへと繋いでいけるように支えていきたい。そして、子どもと一緒に本気で遊び、楽しさを共有できる保育者でありたい。

A男もいつか雪山に登って、自分より年下の子の姿を見守る日がきつとくることと思う。(記 百田)

### 編集後記

“春夏秋冬”様々な経験を通して「今度はこんなことにチャレンジしたい!」「もっと遊びたい!」と沢山の刺激を受けて育っていく子どもたちの様子を今回は掲載いたしました。地域の方々や学生さん、そして保護者の皆様との活動の機会を持ちながら、これからも子どもたちが意欲的に過ごせる保育園でありたいと思っています。

# あのね〜

第27号  
2017年3月  
興道南部保育園  
米沢市本町一丁目1-84  
TEL0238-21-3756

## たのしかったわ



かまくらにはいったの♡  
(あべ まみさん 5歳児)



おにとボールあそび  
(くわばら はるひでくん 5歳児)



みんなといっしょ  
(さいとう ここなさん 5歳児)

## みんなの「たのしい」を えがいてみたよ

当園は、駅や大学そして散歩に出かける先には、様々な人とのふれあいがあつたかな田園に囲まれています。にわとり小屋のおじいちゃんや顔なじみになり、産みだての卵を触らせてもらったり、鴨の赤ちゃんを見せてもらったりして、新しい発見や探究心が芽生える場面。

保育園の花壇をいつもきれいにしてお下さるおばあちゃんに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたり、花の名前を覚えてもらったりしてやりとりする場面。

夏まつりやミニ発表会などの行事にお誘いする手紙やポスターを子どもたちが作って届け「〇〇にきて下さい」と伝え交流を深める場面。

ボランティア活動で保育園に来てくれた中学生や高校生のお兄ちゃんやお姉ちゃんに抱っこしてもらったり、速く走る方法を教えてもらったりして触れ合う場面。

このような地域の方との温かい関わりを通して、子どもたちの思いやりや社会性そして、「コミュニケーション能力が育まれいろいろな学びへとつながっています。

これからも地域の方のご理解やご協力のもと、様々な人と人の関わり、交流ができ、そして地域に根ざした保育園でありたい。

園長 佐藤 和子



「地域の方と共に」

…… 食育活動を通して ……

当園では、健康な生活の土台となる「食を営む力」を身につけて欲しいと願い、今年度“おいしい、たのしい食事にしよう”をテーマに掲げ、毎日の生活やあそびの中で、自らの意欲を持って食にまつわる体験ができるように取り組んできました。

子どもたち同士で、畑の名前や育てたい野菜を決め、保育者や友だちと一緒に土作りや苗植え、水やりなどを経験しました。野菜の生長を見る・触る・収穫した野菜の形や色を伝え合う・数をかぞえ並べるなど…畑作りを通して0歳児から年長児の子どもたちの気づきや学びが多く見られました。

また、収穫したきゅうりや大根を自分たちで塩もみして食べたり、さつまいものツルの皮を剥いたものを給食の先生に煮付けてもらい食べたりしました。

畑から採ってきたひょうも無駄にせず、茹でて揉み乾燥させる“ひょう干し”や“里芋の茎干し”、大根の皮を剥き“凍み大根”を作るなど昔ながらの食文化の体験も楽しみました。

秋には、友だちと一緒にやきいもパーティの準備（落ち葉拾い、床作り、火焚きなど）を経験しながら、みんなで熱々ほくほくの焼き芋を食べたり、お世話になったおばあちゃんや近所の方を招待して収穫祭を行ったりするなど、収穫できたことに感謝しながら美味しくいただくことができました。

このような食にまつわる体験を友だちや様々な大人とのやりとりを通して意欲的に積み重ねていき、楽しく食べることや人との関わりを楽しみ合う子どもたちに成長しています。

### “やさしいはたけ”

“やさしいはたけ”は…  
保育園の敷地内西側にある畑です。  
やさしい気持ちでお世話をして やさしい気持ちでお野菜をとりたいたいという子どもたちの“おもい”を込めて名づけました。

### 祖父母参観



「ぼくのおいもの方が大きいよ!」など、楽しみながらさつまいもを掘りました。

### “おひさまばたけ”

“おひさまばたけ”は…  
常安寺の境内にお借りしている大きな畑です。  
いろんなお野菜やお花が おひさまのひかりをいっぱいあびて 大きく育つようにとの“願い”を込めて名づけました。

「早く大きくなりますように」と願いを込めて、毎日の水やりも頑張りました。

常安へお散歩に行くとって来た!!  
真つ赤なトマトを収穫。給食の先生に届けました。

## いろいろなものつくったよ



### 畑づくり



### つめた〜い!!



### 大根の収穫



### ひょうもみ



### 里いもほり



### 地域の方たち

みんなで育てたお野菜をいただく収穫祭に、地域の方々をお誘いしようと招待状を届けに行きました



### いもづるむき



保育園で収穫したさつまいもを年長さんが焼きました。出来たての熱々やきいもをみんな美味しそうに食べました。



### やきいもパーティ



### うまいなあ〜 んまい!!

